

MAU の陽性化に関連する有意な因子であった。また、糖尿病群では、年齢、FPG 上昇量が MAU の陽性化に有意に関連していた。

糖尿病群において MAU (+) 群は MAU (-) 群に比し虚血性心疾患死亡率が有意に高率であり、糖尿病群において虚血性心疾患死亡に関連する因子は、年齢、性、FPG、MAU であった。

以上より糖尿病では MAU が虚血性心疾患死亡の関連因子となりうると考えられた。

#### 14. 生活習慣が骨密度に及ぼす影響に関する疫学的研究

藤田 恵子 (内科学第二)

本研究は中高年期の受診者を対象に生活習慣が骨密度に及ぼす影響を検討した。

対象は40歳以上の16,735人であり、平均年齢は64.5歳であった。

1. 中高年期においても特に女性は、乳製品の摂取群、運動群、飲酒群で、摂取しない、運動を行わない群に比較して骨密度は高値であった。

閉経後では初潮年齢が早く、初潮から閉経期間が長いほど高値であった。

2. 複数回受診した女性2,845人での縦断的検討では、閉経早期の生活習慣の良い群で骨密度の変化率は低くなった。

#### 15. A single nucleotide polymorphism of dopamine transporter gene is associated with Parkinson's disease

(ドーパミントランスポーター遺伝子多型とパーキンソン病の相関について)

森野 豊之 (内科学第三)

今回われわれはパーキンソン病の発症要因として環境因子と遺伝的因子の両方に関与するものとしてドーパミントランスポーターの多型を解析した。対象としては年齢、性別を合わせた日本人の孤発性パーキンソン病患者172名と正常対照132名を用い、検体としては白血球から分離したゲノムを用いた。多型の同定には直接塩基配列決定法と一本鎖 DNA 高次構造多型を用い、いずれの方法でも全翻訳領域を含むようにエクソン2から15までを検索した。多型の頻度は dot blot hybridization により解析し、統計解析には  $\chi^2$  検定を用いた。その結果エクソン9 (1215A/G) と15 (1898T/C) に多型を認めたが、いずれもアミノ酸配列を変えなかった。両群での頻度を比較したところ、正常対照群では患者群より 1215G が有意に多かった。

この結果から 1215G がパーキンソン病になりにくいことに相関していることが示された。

#### 16. Cyclooxygenase-2 (COX-2) mRNA expression levels in normal lung tissues and non-small cell lung cancers

(正常肺および非小細胞肺癌組織における COX-2 遺伝子発現の検討)

落合 麻里 (内科学第二)

【目的・方法】COX は PG 合成における律速酵素であり、COX-1 と COX-2 に分類される。近年 COX-2 の大腸癌における発癌過程への関与が報告され、また様々な癌においても COX-2 の高発現が示されている。本研究では、非小細胞肺癌29症例の剖検より得られた67検体を、RT-PCR 法を用いて COX-2 の遺伝子発現を比較検討した。

【結果】腺癌および扁平上皮癌は共に、正常肺組織に比べ COX-2 の有意な高発現を認めた。腺癌の分化度では、低分化腺癌が中分化腺癌に比べ高発現を示し、原発巣とリンパ節転移巣での発現に差は認めなかった。

【結語】1) 非小細胞肺癌において、COX-2 の発癌過程への関与が示唆され、今後 COX-2 を標的とする COX-2 阻害剤を用いた治療の可能性を示すものと考えた。2) 予後不良と考えられる低分化腺癌で COX-2 の高発現を認め、COX-2 の発現は肺癌の悪性を示す一つの指標になりうることが示唆された。

#### 17. 日本人及び日系人における fatty acid binding protein-2 遺伝子 codon54 変異とインスリン抵抗性に関する検討

小田 清 (内科学第二)

腸管からの FFA の吸収にあずかる蛋白である fatty acid binding protein-2 (以下 FABP2) 遺伝子の codon54 のアラニン (以下 A) からスレオニン (以下 T) への変異とインスリン抵抗性との関連が注目されている。この関係に環境因子 (生活習慣) が影響する可能性について、遺伝的にはほぼ同一で生活習慣の異なると思われるハワイ在住日系人と広島在住日本人とにおいて検討した。

1) FABP2 codon54 の A, T を含んだ allele の頻度は日系人、日本人ともに同程度であり、他の報告によるピマインディアン、白人における頻度ともほぼ同程度であった。

2) FABP2 遺伝子多型により AA 群, AT 群, TT 群の3群に分けて検討したところ、日本人においてはイ